

2024 年 7 月 30 日

千代田化工建設株式会社
総務部 IR・広報・サステナビリティ推進セクション

2025 年 3 月期 第 1 四半期決算説明会 質疑応答要旨 **(7 月 29 日開催)**

7月29日に開催致しました、2025年3月期第1四半期決算説明会（電話会議）において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

#	質問	回答
1	通期予想	
	2025 年 3 月期 通期予想の受注高 2,500 億円について、内訳や注目案件など金額設定の背景を教えてください。	国内での脱炭素関係や先端技術分野での案件が多く持ち込まれている状況であり、それらを中心とした受注高の目標値となる。
	受注高の目標値で着地した場合に、来年度は減収トレンドに入るのか。完工高（事業規模）を維持できるのか。	2025 年 3 月期においては、完成工事高 4,500 億円に対して、受注高が 2,500 億円であり、受注残高は減る想定。 - 一方、この減収トレンドが継続するというわけではなく、今年度は若干の谷間と見ており、向こう 3 年間(2024 年度～2026 年度)で見た際には 1 兆 2,000 億円の受注を計画している。
2	完成工事総利益(率)	
	粗利益率の評価を教えてください。分野毎に分けてみた際に、利益水準を押し上げている項目はあるか。	- 第 1 四半期の完成工事総利益率が 9%である要因は、主にインドネシアでのタンゲーLNG の引当金を戻したものの。 - また、通期の為替前提 150 円/USD に対しての円安効果を含んでいる。 - 上記を除いた上での完工総利益率は 7%前半であり、今後 8%台を目指して運営していきたい。

#	質問	回答
3	ゴールデンパスLNG	
	現時点でのプロジェクトの進捗率、引き渡しのタイミングを教えてください。	プロジェクトの進捗は約75%だが、スケジュールについては現時点では具体的な設定はない状況であり、今後顧客と合意をしていく想定。
	昨年度計上した370億円の引当金について、引当金以上に費用が発生することはないのか。	370億円を取り戻す姿勢に変更はない。 - 追加の費用計上については、契約改定時点で将来のコストオーバーランが発生しないように顧客と条件をよくすり合わせた上での締結を考えており、極力発生するリスクを抑える。
4	EPC案件の取り組み	
	新規分野となるカーボンニュートラル案件への取り組みが加速している一方、貴社は「EPC」が祖業であるとの理解。 世の中の流れとしては、プロジェクトの大型化が進んでいる中、中小規模の案件については韓国・中国・インドなどの海外エンジニアリング会社が強みを発揮している。 貴社として今後どのように生き残りを考えているか。	「EPC」案件への取組は継続していく。当社が得意とするLNG案件にも引き続き取り組む。 - 顧客とのリスク負担の在り方が肝心であり、そこを見極めた上で引き続きLNG案件などに取り組む。 - 中小規模の案件については他国の存在感があるというご指摘はご尤もである。只、日本国内の案件については、他国勢力の参画はあまり考えられないこともあり、LNG案件などの大型案件と比較し規模は小さいものの、遂行を通じて技術を確認し、海外でチャレンジしていくことを想定している。

以 上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。